病院だより４月号

2021年4月1日　発行

昭和大学横浜市北部病院
通算　第154号

巻頭言　　コロナ禍での新年度を迎えて

副院長
外科系診療センター長
甲状腺センター長
福成　信博

「３密」、「ソーシャルディスタンス」、「PCR検査」この様な言葉が誰もが知る当たり前の言葉となりました。思い返せば、2020年２月に横浜港に入港したダイヤモンド・プリンセス号の新型コロナウイルス感染症例がその始まりでした。

それから１年が経過し、現在、２回目の「緊急事態宣言」が発令されている中、この文章を書いております。北部病院では第３波もやや沈静化してきた現状ですが、自粛緩和後の第４波への警戒と速やかなコロナワクチン接種が始まることを祈願しております。

現在、対面で人と話をする機会が大きく制限された状況下に置かれておりますが、Web会議やTV電話などの利用も増えて参りました。移動せずに情報共有が可能なことはICT進歩に伴う恩恵で有り、コロナ禍が収束してもこの様な流れは加速するものと思います。一方では、情報共有や報告といった伝達事項以外のことを伝えるには、やはりその方と向き合って「話をする」、「話を聞く」ことが最善の方法だと思っています。つらい気持ちを訴える相手の表情、仕草、目線の動きや手先の震えなど、人と人とのコミュニケーションは記録される文章や画像だけでは捉えきれないものがあります。また、その訴えを聞く方の態度、しぐさ、表情、返答の仕方によっても、訴える方にとっては本当のつらい気持ちを吐露できないこともあります。このようなコミュニケーションは患者さんと医療者において１番大切なことではありますが、医療者間（上司、部下）（多職種間など）でも起きえることです。特に新年度をむかえ、入職者や初めて北部病院に配属された方にとっては、分からないこと、不安なことが多々あろうかと思います。従来のように、勤務後にみんなで集まり食事を共にしてざっくばらんに色んな思いを口にする場を、残念ながら今は持つことができません。

つらい時に本当に笑顔で乗り切ることができる人間は、極めて少なく、当事者にしか分からない苦しみを自分の中に押さえ込んでいるものです。何気ない声かけ、「大丈夫ですか？」「変わりないですか？」の声だけでも閉じ込めてある苦しさを、はき出してもらえることもあります。相手の痛み、苦しみを理解しようと努めることが第１歩となります。励ましやアドバイス、具体的な解決策がすぐに浮かぶことは稀です。まずは相手の話を聞ける環境を作り、相手の思いを受け止めて、つらい思いに苦しんでいる相手の理解者になってあげましょう。そこから全ては始まるのだと思います。

北部病院を訪れる方々、北部病院で働く全ての職種にとって、お互いがお互いを思いやることのできる病院にしたいと思います。

目次

P1.【巻頭言】コロナ禍での新年度を迎えて
P2・3.【医学講座コーナー】尿路感染症
【お知らせ】北部医学会を開催しました
P4.【新コーナー】自慢のスタッフを紹介します！
P5.【患者さんからのご意見・ご要望】
P6.各種イベント開催中止のお知らせ、編集後記

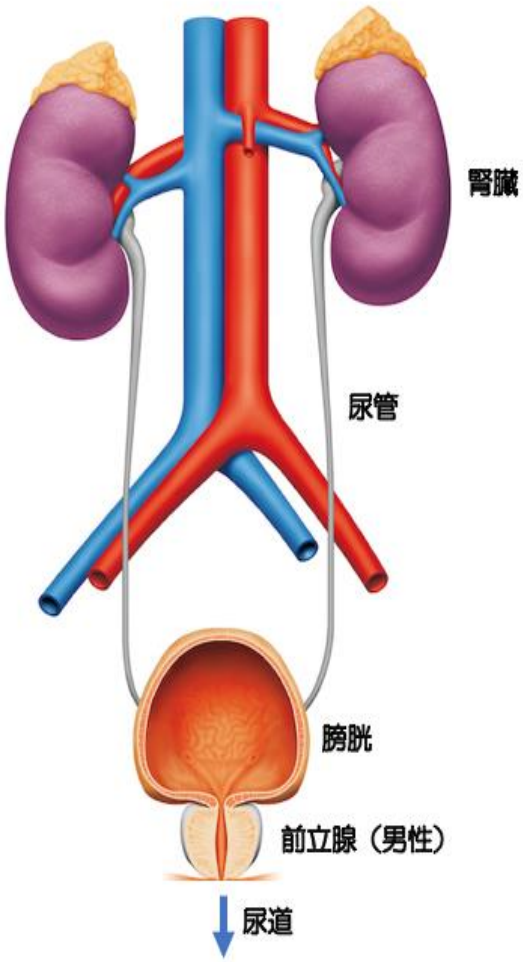
【医学講座コーナー】　尿路感染症について

（文責：内科　教授　緒方　浩顕、監修：泌尿器科　教授　冨士　幸蔵）

どんな病気？

左右の腎臓でつくられた尿は腎臓内の腎盂《じんう》に集められ、尿管という管を経由して、膀胱に溜められて、尿道から体外に排出されます（図）。腎盂から尿道までの尿の通り道を尿路と呼びますが、ここに外部から侵入した細菌が起こす感染症が「尿路感染症」です。尿は尿路の狭窄や閉塞、脱水などの異常や免疫が障害されていなければ、常時尿路を流れていますので、細菌が増殖して感染が成立する前に体外に排出されてしまいます。尿路感染症は、「上部尿路感染症」と「下部尿路感染症」に分類されます。「上部」は腎臓から尿管までの感染で、「急性腎盂腎炎」と呼ばれることがあります（「慢性」腎盂腎炎という病気がありますが、これは尿路異常に起因した慢性的な細菌感染症です）。腎臓は血流が豊富な臓器であり、「急性腎盂腎炎」では感染が容易に血流に入り、敗血症を合併します。このために、高齢者や免疫不全の方では重篤化することが多く、集学的治療が必要な症例もみられます。

一方、下部尿路感染症は膀胱から尿道、前立腺などの感染であり、膀胱炎、尿道炎や前立腺炎と呼ばれます。



症状や兆候は？

上部尿路感染症の症状としては、発熱、悪寒・戦慄がみられ、背部痛、腰痛を伴うこともあります。重症な場合は、意識障害や血圧低下、ショック状態を呈することもあります。

下部尿路感染症では、排尿時の疼痛、頻尿や残尿感がみられ、尿の混濁や血尿を伴うこともあります。単純な膀胱炎では、無症状であることも多いです。急性前立腺炎では、高熱がみられ、会陰部の疼痛や排尿困難が伴うことがあります。

診断は？

尿路感染症は、圧倒的に女性が多いです。これは、原因となる細菌は腸内細菌であり、解剖的な肛門と尿道口（尿の出口）が近接していることにあります。尿道にカテーテルが入っていたり、前立腺肥大や尿路の狭窄・閉塞（結石や腫瘍等）があると男性でも発症します。尿検査で、白血球が増加（膿尿《のうにょう》と言います）を確認し、培養で細菌を検出することにより確定しますが、臨床症状だけで診断がつくことも多いです（発熱、腰痛、頻尿や残尿感、尿の混濁など）。

予防、治療について

尿路に細菌が侵入、増殖しないように、十分水分を摂取し、排尿を我慢しないことが第一です。女性に尿路感染症が多い理由は、上述した解剖学的理由に加えて、トイレに行くことを控えるために水分摂取を控えたり、排尿を我慢していることが関係していると言われています。高齢者や糖尿病の方では、免疫が低下していることに加え、膀胱に尿が溜まったことへの感覚が鈍くなっているために、尿が停留し頻繁に尿路感染症を来すことが有ります。膀胱炎などを繰り返す女性では、温水洗浄便座の使用が原因であることもあります。洗浄時に細菌を尿道に押し込んでしまう可能性があるからです。排便時の肛門を拭く方向を、前から後ろにすることも良いかもしれません。

治療としては、細菌感染症であるために抗生剤投与を行いますが、発熱のない単純な膀胱炎では、水分摂取や排尿習慣の改善だけで治癒することもあります。若年男性にみられる場合や頻回に繰り返す尿路感染症では、合併症などの関与が疑われますので、精密検査が必要です。

【お知らせ】北部医学会を開催しました

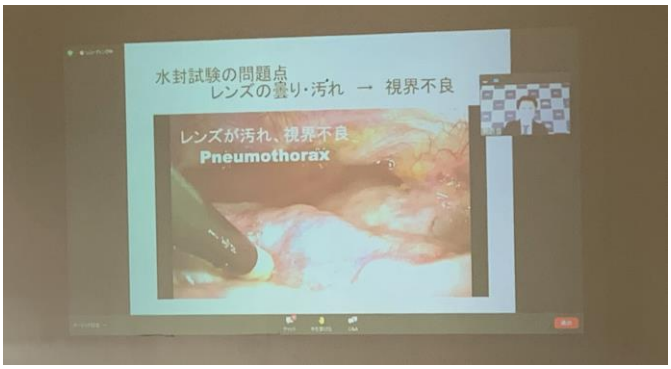
当院では「北部医学会」と銘打ち、医師をはじめ当院に勤務する様々な職種の職員による学術集会を毎年行っています。2011 年に始まった北部医学会は今年で 11 回目を迎え、今年は全部で 40 件の応募がありました。その設立の目的は若手の職員対して勉学や学会発表の機会を与えること、そして当院で働く他部署スタッフの活動内容や工夫を相互に聞きその理解を深めることです。

今年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、例年とは異なり、オンライン開催となりましたが、例年通り熱心な研究発表が行われました。

【LIVE 発表された演題】

① 術中空気漏れ制御への試みー空気漏れの可視化の新技術ー（呼吸器センター　植松　秀護）
② 造影剤未使用時における、DECT 撮影を用いた深部静脈血栓の描出に関して（放射線技術部　中井　雄一）
③ SNS アプリを活用した新人教育は指導者のスキルアップとなるのか（臨床工学室　北原　大）
④ 心臓血管外科術後の体重変化がリハビリテーション進行に与える影響（リハビリテーション室　磯邉　崇）
⑤ コロナ禍における新人教育方法の検討（看護部　坂本　紀世乃）
⑥ スキン - テア発生率減少へ向けての取り組み（褥瘡管理室　小松　美奈子）
⑦ 読影の補助に関する放射線技術部の取り組み（放射線技術部　松本　渉）
⑧ 当院における新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する薬物療法の現状調査（薬剤部　髙田　昂輔）

開式の挨拶をする門倉病院長（左）と
世話人会 会長 成島副院長（右）



オンライン発表の様子

自慢のスタッフを紹介します！

総合サポートセンター
ソーシャルワーカー
いずみ　たかゆき
泉　貴之

①　ソーシャルワーカーを志した理由は何ですか？

私の家族が病気になった際に受診した病院のソーシャルワーカーにお世話になったことがきっかけです。病気になったことで突然生活が一変し、治療以外にもお金ことや介護のことなど様々な問題に直面することになりましたが、ソーシャルワーカーと相談しながら問題を解消していくことができました。医師や看護師などの医療スタッフと同じようにソーシャルワーカーの役割の必要性や大切さを感じ、この職に就きたいと思いました。

②　所属部署の紹介、自身の業務内容を教えてください！

総合サポートセンターは医師、看護師、ソーシャルワーカー、事務職など多職種で構成されており、外来・入院患者さんの様々な相談に応じています。私は緊急入院した患者さんやがん患者さんを中心に、医療費負担に心配がある方や、介護など退院後の生活に不安がある方への支援をしており、社会保障制度の利用につなげたり、自宅退院準備、転院や介護施設への退院調整を行っています。

③　今後どのようなソーシャルワーカーを目指したいですか？

病気や障害を抱えてどのような生活をしていくか、その中で介護や仕事、子育てなど、生活への不安や心配は患者さんによって様々です。患者さんのお考えを伺い、お一人おひとりの思いに寄り添ってより良い療養環境や支援体制について一緒に考え、院内スタッフや院外の関係機関と連携しながらお手伝いできるように努めていきたいです。

総合サポートセンターに相談をご希望の場合・・・

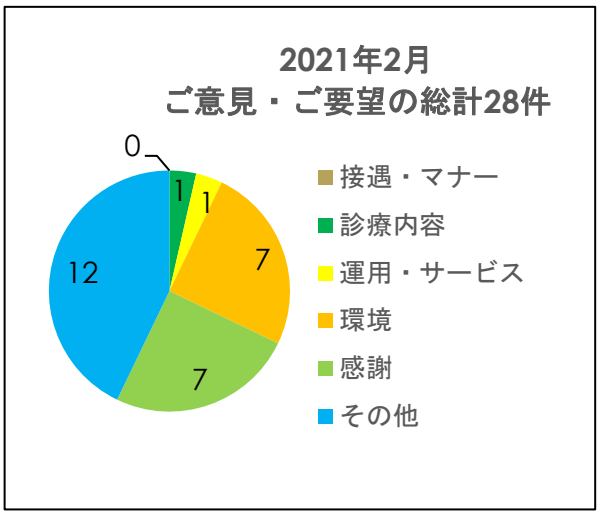
相談内容に応じてソーシャルワーカーや看護師等が協力して対応いたします！

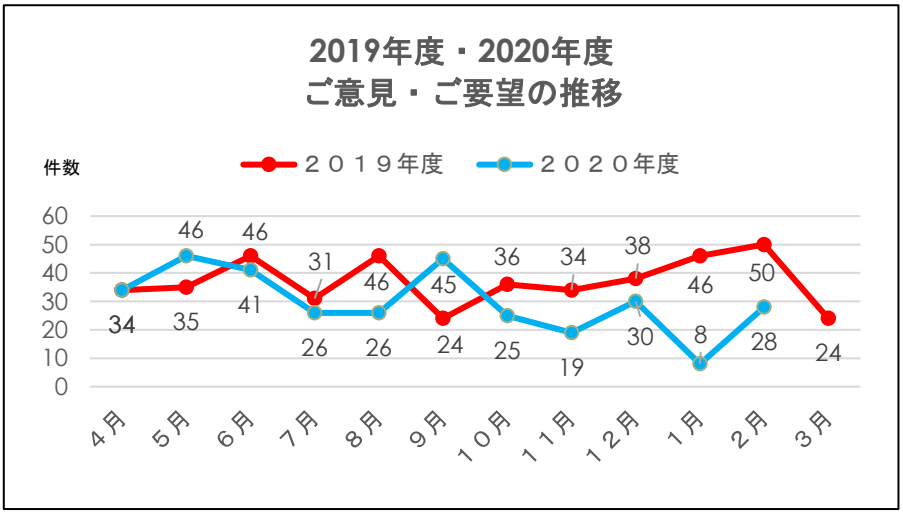
【場所】中央棟１階　100 番
【時間】月～土　８：30～17：00（日曜・祝日休み）
※予約の方が優先です。
※個人の秘密は守り、相談されたことにより不利益が生じないように配慮します。
※相談は無料です。

患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんよりいただきましたご意見･ご要望に関しましては､病院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。
今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見･ご要望を中心に改善策を掲載させていただきました。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。
今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
中央棟正面玄関が自動回転扉になっていますが、老人、身体不自由、病人には通るのが難しいです。 なぜ回転扉にする必要があるのでしょうか。 通常の開き扉にするべきだと思います。	ご意見ありがとうございます。 回転扉は外気の影響を受けづらく、院内の温度変化を最小限に保つのに効果的であるために採用しています。 回転扉のご利用が難しい場合は、正面玄関横に手動扉がございますので、お近くのスタッフにお声掛けいただき、そちらをご利用いただければと存じます。 ご不便をおかけしますが、ご理解の程よろしくお願いいたします。　（回答部署：管理課）
中央棟地下１階で車を止めて患者を降ろしていたところ、駐車禁止だと言われました。 せめて障害者だけでも、中央棟１階の西側入口を利用させてください。	この度は、車の乗降についてご不便をおかけし申し訳ございません。 現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の一環として下記の入口を制限しております。 ・中央棟１階西側入口 ・中央棟地下駐車場 また、中央棟地下１階（南口）では緊急車両等を優先するため、今後もお車の移動等をお願いすることがありますので、ご理解とご協力をお願いいたします。 なお、介護タクシー等の乗降スペースにつきましては別に用意がございますので、ご利用の際はお申し出ください。 （回答部署：管理課）





【お知らせ】各種イベントの開催中止について

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、引き続き以下のイベントを開催中止いたします。

ロビーコンサート

９月までの開催を中止いたします。10 月以降の開催については、決まり次第お知らせいたします。

がん患者サロン「きぼう」

当面の間、開催を中止いたします。再開が決まりましたら改めてお知らせいたします。

がん相談支援センターでは「がん」に関するご相談をお受けしています。
【場所】中央棟１階　エレベーター隣（100 番）
【対応時間】月～金８：30～17：00（土、日、祝日を除く）
※予約は不要ですので、直接お越しください。
※個人の秘密は守り、相談されたことにより不利益が生じないように配慮します。
※相談は無料です。

編集後記

新たな門出と旅立ちの陽光溢れる若葉の季節が巡ってきました。残念ながら、昨年同様、歓送迎会で食事を楽しみながら、談笑することは叶いません。しかしながら、去年と異なり、新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種の見込みが立ち、希望の光が見えてきました。来春には、光の季節を楽しむことが出来ることを祈念して、本年度最初の『病院だより』を編集しました。引き続きご愛読を心よりお願い申し上げます。

北部病院にも新研修医や新人職員が多数入職して来ます。未来の医療を支える人材の育成には、我々だけでなく、患者さんやそのご家族の方々のご協力が必要です。未熟でご迷惑をお掛けする場面もあるとは思いますが、引き続きご指導をお願い申し上げます。

（広報委員長　緒方 浩顕）

北部病院だより　第１５４号
2021 年４月１日発行

発行責任者　門倉　光隆（昭和大学横浜市北部病院長）
編集責任者　緒方　浩顕（広報委員会 委員長）
発行　昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503　横浜市都筑区茅ケ崎中央 35-1
電話 045-949-7000(代表)
URL：http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html
北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。